



これまでの「私」 これからの「ワタシ」

LIBRARY HISTORY ~品川区立図書館95年の歩み~

これからの図書館 Library from now on

しながわの図書館めぐり「源氏前図書館から荏原図書館」

FAMILY LIBRARY「児童担当のお仕事/児童コーナー紹介[八潮図書館]」

しながわ!活動レポート「品川歴史館」

熱血!新着くん!「目を過ぎて、督促来たし」



新しい出会いが
これからの「ワタシ」をつくる

撮影地:表紙・裏表紙ともに品川区立大崎図書館分館(大崎3-12-22)



品川区立図書館広報誌「LiLiLi(リ・リ・リ)~Life Link Library~」

2019年春号 No.8(年2回発行)

発行:品川区立図書館

(代表:品川図書館 ☎ 3471-4667 Fax 3740-4014 北品川2-32-3)

■本誌に掲載している表紙絵・写真は、各出版社等の許諾を得て使用しています。■古紙を配合した紙を使用しています。



品川区立図書館
ホームページへ

「これまで」から「これから」へつながる

LIBRARY HISTORY

～品川区立図書館95年の歩み～

品川区に図書館が誕生してから95年。
品川区立図書館は全11館となりました。
品川区立図書館の「これまで」を
年表と懐かしの写真で振り返ってみましょう!

2019年(平成31年)	2018年(平成30年)	2016年(平成28年)	2012年(平成24年)	2011年(平成23年)	2010年(平成22年)	2008年(平成20年)	2004年(平成16年)	2003年(平成15年)	2001年(平成13年)	1997年(平成9年)	1992年(平成4年)	1990年(平成2年)	1988年(昭和63年)	1986年(昭和61年)	1982年(昭和57年)	1983年(昭和58年)	1984年(昭和59年)	1978年(昭和53年)	1977年(昭和52年)	1975年(昭和50年)	1974年(昭和49年)	1972年(昭和47年)	1971年(昭和46年)	1968年(昭和43年)	1970年(昭和45年)	昭和	大正
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	----	----

おもなできごと

財団法人六行会が南品川に建設した荏荏町倶楽部の一部に荏荏町文庫を開設(のちに六行会経営の品川図書館となり、東京市に寄付。都制の施行と同時に東京都立品川図書館と改称)
東京都が委任していた図書館管理を全面的に品川区へ委譲されたことにより、都立品川図書館は東京都品川区立図書館(のちの品川図書館)と改称

レコード個人貸出開始(2005年)

2月 予約制度開始

7月 二葉図書館オープン

11月 荏荏図書館オープン

7月 南大井図書館オープン

4月 相互貸借制度開始

7月 源氏前図書館オープン

11月 「さわる絵本」貸出開始

12月 品川図書館障害者サービス開始

10月 ゆたか図書館オープン

6月 大井図書館オープン

7月 五反田図書館オープン

7月 大崎図書館オープン

7月 八潮図書館オープン

品川図書館に平和資料コーナー開設

CD貸出開始(品川図書館。のちに全館で貸出)

ビデオ貸出開始(品川図書館。のちに荏荏町図書館でも貸出)

品川区立図書館全館コンピュータオンラインシステム稼働

マンガ貸出開始(品川図書館。のちに全館で貸出)

品川区立図書館ホームページ開設

DVDの貸出開始(品川・荏荏町図書館。のちに大井・五反田図書館でも貸出)

ビジネス支援図書館(大崎図書館2階)オープン

貸出停止制度開始

武蔵小山行政サービスコーナーにて図書取次サービス開始

大井町行政サービスコーナーにて図書取次サービス開始

個人貸出の貸出期間を2週間に(一部1週間の資料あり)

1月 品川区立図書館全館にて「本の福袋」を実施

10月 品川区立図書館広報誌「LiliLi」創刊

2月 大崎駅西口図書取次施設(おおさきこども図書室)オープン

4月 品川区目黒サービスコーナーにて図書取次サービス開始

6月 大崎図書館移転開始

1月 大崎図書館分館オープン



品川図書館 ※1952年当時

1928年に六行会が建設した品川図書館です。その後、1963年に改築し、1995年に中央館として新装開館しました。



ゆたか図書館 ※1975年当時

誰でも気軽に利用できるよう、明るく入りやすいガラス張りの図書館。玄関の段差をなくす、自動ドアを取り付けるなど車いすの利用者でも利用しやすい工夫がされています。



本の福袋の貸出

テーマや年齢別に図書館員が選んだ3冊の本を自身の分からない状態で貸し出す、年始のイベントです。添えられたメッセージが、どんな本が入っているのか想像しながら選ぶことができます。



大崎駅西口図書取次施設

通称「おおさきこども図書室」として児童書の貸出やおはなし会を行っているほか、ホームページなどから予約した資料の受け取りや利用登録、カードの更新もできます。



大崎図書館分館

1月25日に芳水小学校敷地内に新しく開館した図書館です。昨年3月に閉館となった旧大崎図書館を継承し、「地域密着型図書館」としてご利用いただいています。

思い出写真館

八潮図書館 (八潮としょかんCafe)

原則毎月第4月曜日開催



みんなで
楽しみながら
お勉強

八潮図書館長から

地域のみなさんと専門家を交えて認知症について学んだり、コーヒーを飲みながら楽しくおしゃべりしたり出来るカフェです。認知症やその介護について専門家に聞いてみたいけど専門機関に行くのはちょっと敷居が高いと感じている方は一度のぞいてみませんか？

関連資料も
揃えています。



最新事情

これからの図書館

Library from now on

急速に進む高齢化の中で、認知症への対応が求められています。多様な機会のひとつとして、平成30年度から身近な図書館で認知症カフェを開催し、「区民の知りたい」に応える図書館づくりを目指します。

五反田図書館長から

モクヨン五反田カフェは、毎月第4木曜日に五反田文化センターで開催しています。地域の皆さんと認知症について学びながら、ちょっとした作業やぬり絵、折り紙などを行っています。何より、皆さんとお茶を飲みながら、ゆっくりお話できるのが楽しい時間です。アットホームな雰囲気のカフェなので、肩肘張らずに催しやお話を楽しんでいただければと思います。ぜひ、お気軽にご参加ください！

原則毎月第4木曜日開催

五反田図書館 (モクヨン五反田カフェ)

新聞紙で
エコバッグを
作りました。



たくさんの方に
ご参加いただき
ました！



認知症カフェって なあに？

品川区では、認知症になっても安心して暮らし続けられるまちをめざし、誰もが住み慣れた地域で安心して気軽に集うことができる場を認知症カフェとして認定しているよ。区内ではいくつかの認知症カフェが運営されているけど、今回は品川区立図書館が運営している認知症カフェにスポットを当てるね。読者のみんなは誰でも利用できる図書館で、こんな新しい取り組みをしているって知ってた！

区のキャラクター

品川区認知症対策普及啓発
キャラクターのくるみちゃんです。



「くるみ」という名前には、「まちくるみ、地域くるみ、品川くるみで取り組んでいこう!」という思いが込められているんだよ。読者のみんなが認知症について考えてくれるとうれしいな！
左手に付けているオレンジリングは、認知症サポーター養成講座を受けている証だね。多くの図書館職員も付けているよ！



こんなに綺麗に
出来上がりました！

荏原図書館長から

「えばら なごみカフェ」は、淹れ立てのコーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しみ、ほっこりした気持ちになれる場所です。物忘れ防止ゲームや回想法のレクリエーション、音楽療法士を迎えてピアノの生伴奏つきで懐かしい歌を歌うなど、毎回趣向を凝らした内容で参加者をお迎えています。認知症に関心のある方向けに相談コーナーを設け、各種窓口の紹介も行っています。

原則毎月第4木曜日開催

荏原図書館 (えばら なごみカフェ)



1 旗岡八幡神社

長元元年(1028年)に上総、下総で起こった「平忠常の乱」を治めるべく、同三年(1030年)に朝命を受けた甲斐守源頼信が同地へ赴く道中、この地にて靈威を感じたため、源氏の氏神である八幡大神をお祀りし、戦勝を祈願したのがその発祥とされています。高台に陣を敷き、源氏の白旗をなびかせて武力を誇ったことから、この地が「旗岡」、あるいは「旗の台」と呼ばれることとなりました。境内には、戦災を免れた貴重な神社建築として国の登録有形文化財(建造物)に登録された「絵馬殿」、社務所内には品川区有形文化財である「猿駒止(さるこまどめ)の絵馬」が保存されており、地域の鎮守として敬われてきた歴史を今日まで伝えていきます。



アクセス：東急大井町線「中延駅」「荏原町駅」より徒歩5分

2 旗の台つりぼり店

レトロな佇まいの和風建築の扉をあけると、中には…生け簀(いけす)が! かつて銭湯だった場所を「つりぼり」に改装したお店が、旗の台駅の近くにあります。番台や洗い場、壁の富士山など銭湯の雰囲気はそのままに、浴槽は生け簀として生まれ変わりました。脱衣所は食事スペースとして活用されており、お客さんを楽しませる仕掛けがそこかしこにあります。



3 中原街道

中原街道は品川区内を南北に通る幹線道路です。江戸時代に東海道が整備されて以降は脇往還として盛んに利用されることとなりましたが、かつてはこの街道が東海道としての役割を果たしていました。徳川家康が平塚に鷹狩などのために築いた中原御殿が名前の由来で、かつては「中原往還」「御殿街道」、武蔵から相模への道の意味で「相州道」や「相州街道」、小杉への道の意味で「小杉道」「小杉通り」など、様々な名称で呼ばれていました。



歴史

『ビジュアル源平1000人 清盛、頼朝、義経…源平争乱の546人と歴史を動かした偉人たち』世界文化社 ISBN:978-4-418-11233-3

「源氏前」「旗の台」といった地名のゆかりとなった人物を知りたいなら、こちらの本はいかがでしょうか。平家の栄華にはじまり、源平合戦、各時代の文化、源平の子孫の紹介と、歴史を彩ったキーパーソンたちの情報が満載です。



自然

『みつばち飼う人この指とまれ! ニホンミツバチ飼育実践集』御園孝/編著 高文研 ISBN:978-4-87498-530-4

日本各地でニホンミツバチを飼う取り組みがあることをご存知ですか?この本では自然豊かな山間部のみならず、銀座や日本橋などの都心部での養蜂の実践も紹介されています。中には学校での取り組みもあり、ニホンミツバチが身近に感じられる1冊です。

しながわの図書館めぐり 第6回 源氏前図書館→荏原図書館

品川区にある図書館から図書館の散策路紹介企画「図書館めぐり」も第6回目!今回は前回の到着地である源氏前図書館から、荏原図書館までのルートを紹介。図書館の利用カードは全館共通です。みなさんも散歩を楽しみながら、品川の街と図書館をめぐってみませんか?



4 NPO法人 街のお助け隊コンサルジュ/ NPO法人 中延日本蜜蜂保存会

NPO法人街のお助け隊コンサルジュでは、高齢者の日常のちょっとした困り事のサポートをしています。電球の取替えや、買物、部屋の片づけなど、年を重ねるにつれ徐々に難しくなる作業を仲介し、作業員(有償ボランティア)にはお礼として、商店街で使えるクーポン券などが支払われます。ボランティアの登録者は、定年後の元気で特技のある高齢者が多く、有償であることでやりがい生まれ、商店街にも利益があるという仕組みです。平行して、NPO法人中延日本蜜蜂保存会として日本蜜蜂の養蜂を行っています。一般的に市販されている西洋蜜蜂のハチミツとは異なり、日本蜜蜂のハチミツは自然環境が整っていないと採れない上に、収穫量も10分の1程度とのこと。自然保護の大切さや、古くから引き継がれた養蜂という伝統文化を、次世代の子供たちに伝える活動しています。



5 なかのぶスキップロード 中延商店街

戦後もなく商店街としての形を成した中延商店街ですが、もとより多かつた年配の方から、近年増えてきたファミリー層まで、どなたにも優しい商店街を目指しています。アーケードのデザインをスペイン風にしたことから、闘牛士のマスコットキャラクター「パセオくん」が大活躍!20年ほど前に公募によって誕生したパセオくんは、今では着るのみが区内の様々なイベントにばられるほどの人気を博しています。また、隔年で開催している「中延ねぶた祭り」と「中延よさこい祭り」は、都内有数の規模でありながら、商店街主催であることも珍しく、毎回多くの人を楽しませています。さらにグッドマナーキャンペーンとして、近隣の小学校から40数名を募り、防犯やマナーに関するアナウンスをしてもらうなど、商店街と地域の連携に取り組んでいます。



マスコットキャラクター パセオくん



児童コーナー紹介 第6回

「地域に根ざした、居心地のよい図書館」

八潮図書館

第6回は、周辺に京浜運河沿いの公園や大井ふ頭中央海浜公園などがある八潮図書館をご紹介します。八潮児童センターも併設され、連携事業も多く行われています。海と緑に囲まれた、落ち着いた空間で本に親しんでみませんか。

【最寄】
都営・京急バス八潮パークタウンより徒歩1分
【住所／連絡先】
八潮 5-10-27 ☎ 3799-1414

1. かざりつけ



目立つ表示や分かりやすい分類を心掛けています。たとえば「どうぶつ」や「のりもの」など知識のコーナーでは、細かいジャンル別に分けています。
季節のおりがみなどで利用者を楽しませる工夫もしています。

3. ブックカフェ



八潮児童センターとの連携イベントとして、原則、毎月第二月曜日に八潮児童センターの1階入り口フロアで「ブックカフェ」を行っています。地域のボランティアの方が作った、おいしいお菓子を食べて、ハーブティーを飲みながら、落ち着いた空間で図書館スタッフが選んだ本を読むことが出来ます。日頃、仕事や家事・育児に追われ、忙しい毎日を送っているお母さん方に、少しでもリラックスしてもらいたいという想いから始めました。ボランティアさんや児童センター職員も一緒に参加し、本や子育ての相談にも乗っています。

4. ティーンズコーナー



ティーンズコーナーでは、中学生向けの本を置いています。目を引く表示はもちろんのこと、スタッフが選んだオススメの本を前に出してPRしています。
特集展示は、2か月に1度のペースで入れ替えを行っています。

5. 特集展示



おはなし会が終わった後には、おはなし会で読んだ本を展示しています。毎週、多くの方が借りていかれます。他にも、オススメの本リストやパンフレットを置いたり、「あたらしく入った本」なども展示しています。



図書館の仕事と聞くと、みなさんは何を思い浮かべますか？「貸出」？「返却」？「本の整理」？
いいえ、それだけではありません。図書館には他にもたくさんの仕事があります。
このコーナーでは、赤ちゃんからティーンズまでの皆さんと本を結びつける、児童担当のお仕事を紹介していきます。
第一回は児童図書の本の選定について、スポットを当てます。

児童担当のお仕事 ~本をどのようにえらんでいるか~

⑥ 購入後

会議で入れることが決定した本を購入します。購入した本は汚れないように透明なフィルムをかけ、ラベルを貼ります。その後、システムに本の登録をしてから本棚にならべます。



① 本が届く
毎週火曜日に、書店さんから品川図書館に新刊が届きます。

② 本を分ける
届いた本を品川区立図書館全体で分担するため、仕分けします。

児童本が 棚に並ぶまで



④ 合同選定会議

毎週水曜日、午前中に各図書館から職員たちが集まって、読んだ本の中からどれを購入するか会議をします。1冊1冊、読んだ本を説明し、複数で意見を交わして図書館に所蔵するかどうか判断します。区内全体として見た時に、各図書館にバランスよく入るように調整なども行います。

③ 誰がどの本を読むか担当を決める

担当者が、②で分けた本をさらに仕分けし、誰がどの本を読むか、割り振りをしていきます。週によって届く本の量にバラつきがあるので、多い時は1人10冊以上という週もあります。

2週間後

図書館サービスの案内

★おはなし会
毎週、区立図書館全館とあわせて、1つでも図書室で開催中です！
※詳しい開催日時については、別途おはなし会のチラシをご用意いたしましたが、区立図書館ホームページをご覧ください。

★ブックリスト

図書館オススメ本を紹介したブックリストを区立図書館、おおさきこども図書室で配布しています！
区立図書館ホームページでも掲載していますので、ご覧ください。

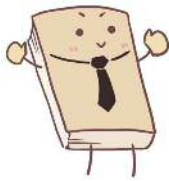
★はじめてのえほん

4カ月健診を受けた後のお子さんに、乳幼児向けの絵本やブックリストをお渡ししています！
※絵本は引換券との交換となります。

★その他

図書館の利用カードは、0歳からつくることができます。
また、小学校1年生・義務教育学校1年生までのお子さんが利用カードを作ると、黄色い図書館バッグをさしあげます！





新着くん

図書館に入ったばかりの図書館一年生。いつかバスりたいので、かわいさアピールに余念がない。

熱血!

★図書館新入物語★

新着くん!



先輩さん

図書館歴が長いベテランで、何でも教えてくれる親切な本。図書館史上最強に映える見た目だと自負している。

第6話 日を過ぎて、督促来たし

「よっ、新着くん」

「先輩さん! ずいぶんおひさしぶりですね!」

「ああ、ちょっと延滞された」

「延滞?」

「返却日を過ぎても返却してもらえんことや」

「先輩さんはどれくらい延滞されてたんですか?」

「二か月ちょっとかな」

「そんなに!」

「なんべんも図書館から電話かかってきたんやけど、全然俺のこと読み終えてくれへんくてなあ」

「返却日を過ぎたら図書館から電話がかかってくるんですか?」

「せやで。督促言うてな。返却日過ぎたら『返却日過ぎてますよ!』いう連絡をすんねん」

「でも2週間って短いんですよね」

「予約ついてへんかったら延長できるで」

「延長?」

「新着くんはいつまでもういういいなあ。そろそろ延長くらい知っとっても良さそうやけど」

「あんまり経験積みすぎたら新着くんと呼ばれなくなるかもしれないじゃないですか」

「セルフブランディングやったんか」

「で?」

「ああ、延長やな。予約がついてへんくて、返却日前やったら延長がでんねん」

「難しいですね」

「どこがや。あとな、延長は一回しかできひんから気をつけや」

「ちょっと待ってください。えっと、つまり、予約がついていない、返却日を過ぎていない、延長を

まだしていない、この3つの条件を満たしていれば延長ができるということですね?」

「せや。ところで新着くん、さっきで?」って言うたな」

「言っていないです。先輩さんの話は勉強になるなあ」

「先輩に向かって『で?』はないんちゃうか」

「言っていないです。あつ、ボクに予約ついたみたいなんで貸出の旅に出ますね! アディオス!」

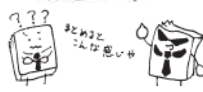
「あつ、こら、待て」

延長のための3つの条件

・予約がない

・返却日を過ぎていない

・延長をしていない



社会の荒波にもまれて手垢のつき始めた新着くんであった……

新着くん、借りてる資料を延長したい時、実際にどうやったら延長できるか知ってるか?

うーん。念じる?

せやな、「貸出期間が延びますように延びますように」言いながら手を合わせて……ってあほか!

えー、違うんですか。じゃあ、褒めてのばす!

そうそう、「お前はほんまにおもしろい本やなあ、えらい本やなあ。よーしよし、返却期限よ延びろー」ってちゃうわ!

※ゼンジー注) 新着くんがボケたおしておるので、ワシが代わりにお答えしよう。正解は、図書館ホームページ、館内検索端末、お電話にて延長が可能なのじゃ。

地域 × 図書館

しながわ! 活動レポート

Vol.6

品川区立品川歴史館

このコーナーでは、図書館、本、読書などの繋がりがあがる品川区内の地域活動にスポットをあてて紹介していきます。第6回は、大井図書館と地域連携を行っている、その一つとして平成31年2月に歴史講座を開催した品川区立品川歴史館の野田裕樹さんとお話を伺いました。



品川区立品川歴史館 (大井6-11-1 <http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/06/historyhp/hsindex.html>)



品川歴史館職員
のどろみ野田裕樹さん
おすすめの本
『くずし字用例辞典 普及版』
『くずし字解説辞典 普及版』
児玉幸多編 東京堂出版

A: 10月初旬から12月初旬まで特別展を開催しています。日本中の様々な博物館から資料を借りてきて、品川に関するテーマで展示を行っています。去年は「明治維新―その時品川は―」という展示を行いました。これに関連して講演会やお茶会もあち歩きといったイベントを開催しました。特にまち歩きは人気が高く抽選になってしまふことが多いです。また、2月初旬から3月末

Q: まずはじめに、歴史館が出来たきっかけを教えてください。
A: 40年ほど前に品川区史を編纂する過程で収集した資料を保存・活用するための施設が必要という事になり、歴史館設置の話を持ち上がりました。吉田秀雄記念館だった敷地を品川区が取得し、昭和60年に品川歴史館が開館しました。ちなみに庭にある「松滴庵」という茶室は、以前この場所にあった安田財閥関係者の安田善助邸の頃からそのままに残されています。また、吉田秀雄記念館の頃からお茶会などに利用されていた大広間を再現した書院もあり、当時の欄間などを再利用しています。

Q: お子さん向けにはどのようなものがありますか?
A: 7月下旬から9月中旬にかけて、昔の道具の展示を行っています。去年は「体験しよう! いろんな道具! くらし・遊び・遊び」というテーマで開催しました。展示を見ながら書き込んでもらうワークシートを用意し、興味を持ってもらえるように工夫しています。

Q: 図書館以外の施設とどのような連携をされていますか?
A: 小学校の社会科見学や、介護施設の方が団体でいらっやいます。社会科見学の場合、事前に申請していただければ、品川区外の学校も無料でご利用いただけます。介護施設の場合、区内の区外を問わず利用される方も職員の方も無料でご利用いただけます。

また、親子歴史講座を7月末から8月初旬に連続講座として行っています。夏休みの自由研究のテーマになるように、ものづくりに関連するものを行っています。去年は和紙とわら筆を作りました。埴輪や勾玉を作った年もあります。

Q: 今回の「ワタン」ですが、歴史館で考えている新しい試み等があれば教えてください。
A: 昨年度、展示解説文を英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語の4言語に翻訳しました。館内各所に設置したQRコードを読み込むと、各言語の展示解説文を参照できる仕組みを、この4月から運用開始しました。今までは日本語の解説文しかなかったのですが、これからは海外のお客様にも楽しんで頂けるのではと思っています。来年にはオリンピック・パラリンピックも控えていますので、より一層海外の方にも来館して頂けたらと思います。

大井図書館主催の歴史講座「沢庵和尚、熱海温泉にあそぶ」の様子。講師は歴史館専門委員で、会場も歴史館の講堂で行いました。



野田さんに人生の転機になった本を伺いました。
『千々石ミゲルの墓石発見』
大石一久著 長崎文庫社
著者の大石一久さんは野田さんの高校の先生で、先生をしながら石造物の研究をされていたそうです。在学中に出版されたこの本を読み、先生との出会いをきっかけに「日本史はおもしろい!」と感じ、大学で日本史を専攻する事になり、歴史館で働く今に至るそうです。

大井図書館は歴史館から一番近い図書館で、歴史館の催し物と連動した本の展示も行っています。2月の講演会もそうですが、地域連携をきっかけに普段はあまり来たことのない方が双方の施設に来てくださった事が分かると嬉しく感じます。今後も地域の様々な方に楽しんでいただく機会を作れたらと思います。

観覧いただけます。
庭の景色をみなさん喜んでくださっていて、特に桜と紅葉の季節が人気です。

Q: 今回の「ワタン」ですが、歴史館で考えている新しい試み等があれば教えてください。
A: 昨年度、展示解説文を英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語の4言語に翻訳しました。館内各所に設置したQRコードを読み込むと、各言語の展示解説文を参照できる仕組みを、この4月から運用開始しました。今までは日本語の解説文しかなかったのですが、これからは海外のお客様にも楽しんで頂けるのではと思っています。来年にはオリンピック・パラリンピックも控えていますので、より一層海外の方にも来館して頂けたらと思います。